

トライトンブイ18号基の気象センサー盗難について

1. 状 況

独立行政法人海洋研究開発機構（理事長 加藤 康宏）のトライトンブイ（海洋観測ブイ）18号基（平成16年7月12日、南緯1.5度、東経90度に設置：図1）は、海洋地球研究船「みらい」による定期的交換のため、平成17年8月9日に回収を行ったが、ブイに搭載した気象センサーが無くなっていることが判明した（図2）。

同ブイには船の接触跡があること、また、気象センサーは、タワーに盗難防止ボルトで強固に固定したものであり、それらが取り付け部分から切断されていることから、気象センサーのデータが欠測し始めた本年7月中旬に盗難にあったものと推察される。

2. 今回設置した18号基の対策

今回被害にあった18号基は、平成16年7月にも気象センサーおよび浮体内に格納した電装容器が全て盗難にあっており、気象センサーの取り付け用盗難防止ボルトの種類を1種類から2種類に変更し、ステンレス製バンドを用いて取り付けを強化するとともに、電装容器の格納蓋に溶接を施したうえ設置していた。今回回収した結果では、電装容器の盗難は免れたが、気象センサーは取り付け部分が切断され、全て盗難にあった（図3）。

太平洋西部およびインド洋での展開域は、比較的陸に近い海域であり、人為的被害は後を絶たず、毎年防止対策を強化してきており、今回設置する18号基を含め今回の航海で設置するブイの全てには、盗難防止ボルトの追加(2本→4本)と気象センサー取り付け金物の強化(肉厚3mm→5mm、面積を5倍に増強)(図4)、電装容器の格納筒蓋固定の二重化など、幾つかの新たな対策を講じている。この地点では気候変動に大きな影響を与えるダイポールモード現象の解明の観点から気象データ取得が研究上重要であり、気象観測を続ける必要があるため、今回の盗難を踏まえ、更なる盗難防止対策を検討していく。

(日時は全て日本時間)

問い合わせ先

海洋研究開発機構

海洋工学センター研究支援部観測ブイ運用グループ担当 松本 健寛

TEL046-867-9872

経営企画室報道室長 大嶋 真司

TEL046-867-9193

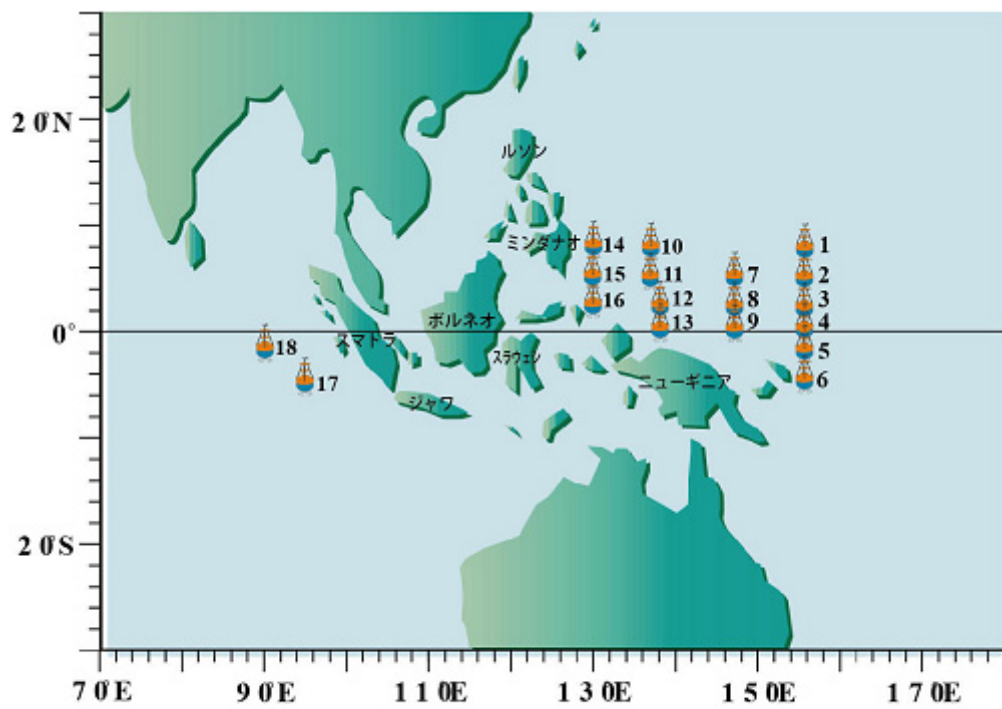


図1 トライトンプイ18号基 設置海域図

トライトンブイの構成

主要寸法等

直径	約2.4m
高さ (ブイ浮体部)	約2.1m
高さ (タワー頂部)	約4.4m
重量	約2.4tf
全没時排水量	約5.7tf

計測項目

風向、風速	
気温、湿度、気圧	
雨量	
日射量	
流速 (10m)	
塩分、水温	(1, 5, 25, 50, 75, 100, 125, 150, 200, 250, 300, 500, 750m)

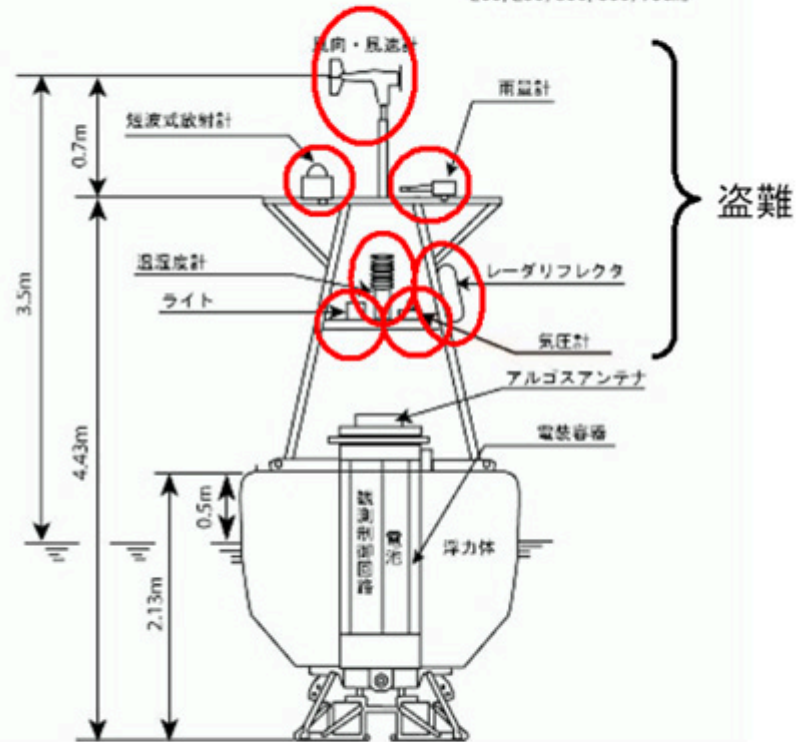
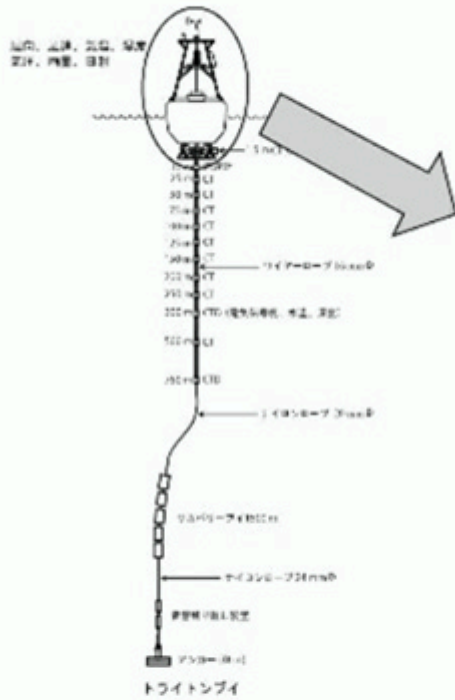
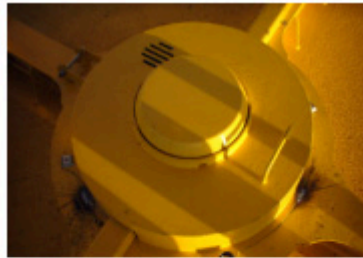


図2 トライトンブイ装備品の盗難箇所



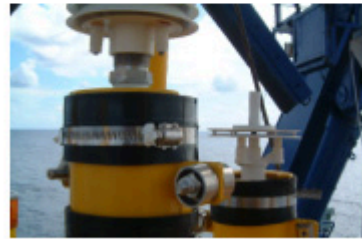
(左) 電装容器格納蓋の部分溶接



(右) 温湿度計の固定



(左) 風向風速計の取付



(右) 大気圧計(奥)の取付

今回盗難にあったブイに施していた対策例



(左) 温湿度計と大気圧計の盗難跡



(右) 風向風速計の盗難跡

今回盗難にあったブイの回収時の被害状況

図3 被害にあったトライトンブイ 18 号基の盗難防止対策と被害状況



- ・ボルト取付部の面積を約 5 倍とするとともに、肉厚を 3mm から 5mm に増強
- ・盗難防止ボルトを 2 種 2 本から 2 種 4 本に変更

図4 今回設置したトライトンブイ 18 号基の盗難防止対策

